

議会運営委員会行政視察報告書

日程：平成26年1月22日（水）～平成26年1月24日（金）

視察先：千葉県流山市、埼玉県飯能市

参加者：高橋典弘、麻生豊、家森建昭、中平好昭、小川宏子、赤木達男、下村昭治
事務局随員1名

●千葉県流山市（1月23日）

【人口】165,195人 【面積】35.28km² 【財政力指数】0.92

◆視察事項 議会運営におけるICT化の取り組みについて

1 タブレット利用について

(1) 導入の経緯

平成21年4月「流山市議会基本条例」施行

平成21年9月「議会活性化推進特別委員会」を設置し、改革を検討・実践

平成22年9月 携帯端末機（スマートフォン）による電子採決システムを導入

平成23年3月 特別委員会を中心に「流山市議会ICT化推進計画」を検討し、
決議

平成24年7月 携帯端末機の機種変更を機会に、タブレット端末を導入

(2) 利用状況、メリット等

携帯端末機の通信機能を利用し、安価な電子採決システムを構築

議会内のペーパーレス化の促進

- ・ 会議通知等の電子メール化
- ・ 議案書及び予算書・決算書の電子化
- ・ 各種資料の電子化

(3) 課題、留意点等

- ・ 議員へのサポート体制の構築
- ・ 利用のルール作りが必須
- ・ 通信費などの費用負担
- ・ 執行部の資料作成などの協力

2 委員会等のインターネット中継

(1) 導入の経緯

平成18年9月 インターネットによる議会中継を開始

平成22年4月「議会活性化推進特別委員会」のUSTREAMによる委員会中継実施

平成23年11月 議会運営委員会、常任・特別委員会のライブ中継を開始

※「USTREAM」は、誰もが動画や映像をインターネット上に無料で配信（生中継）
できる動画共有サービス

(2) 利用状況、メリット等

職員1名がカメラ操作や画面の切り替えを行う

委員会配付資料は議会ホームページに掲載している

中継した委員会映像をダウンロードし、事務局の記録として保管
機材等（総額 211 千円）

パソコン1台、カメラ4台、オーディオインターフェース1台、マイク1台、
その他ケーブルほか

◇流山市議会ICT推進基本計画

議会のオープン化（透明、参加、協働）に向けた手段として、ICT技術
の積極的活用を推進する計画

ソフト面での計画事業

(1) 市民との情報共有の拡充

- ・本会議、委員会などのインターネット中継
- ・議会ホームページの充実 など

(2) 市民参加による議会運営

(3) 議員の情報活用能力及び活用環境の向上

(4) 議会内のペーパーレス化を促進

- ・会議通知等の電子メール化
- ・議案書の電子化
- ・予算書、決算書、関係資料の電子化
- ・会議録の電子化 など

ハード面での計画事業

(1) 議会内LANの構築

(2) 機器及びシステムの整備

- ・スマートフォン及び情報端末を全議員に配布し活用する
- ・議場のプレゼンテーションツールの整備 など



【委員の感想】

- 平成 21 年 議会基本条例を施行以来、議会活性化推進特別委員会を設置し「流山市議会 I C T 推進計画」を策定。この結果、本会議・議会運営委員会・常任委員会・特別委員会・全員協議会・会派代表者会議などあらゆる会議を、ユーストリームによるインターネット中継で配信し、議会・議員のありのままを市民に情報提供する基本的な情報公開を、議会改革・活性化のコンセプトにより大胆に実施されている。また、facebook を活用し市議会のホームページを開設されており、これらは多様な情報受発信に大きな効果を上げている。
- 積極的な情報公開を推進するため「U S T R E A M」を活用した全国初の委員会インターネット中継（平成 22 年 4 月）。全国初で意気軒昂である。
- 委員会のインターネット中継を、市議会として全国初で実験的にスタートした事は大変評価できる。その後、議運・常任・特別委員会もインターネット中継されている。
- 市民に対する説明責任を果たすツールとして、また議会活動（特に合議機能、チェック機能を果たす上で最も重要な委員会活動）の活性化とレベルアップにつながるネット中継は大変有意義であることを痛感した。
- 「市民に開かれた市議会」を実現するために、議会基本条例を他の自治体議会に先がけて制定等、精力的に取り組まれた。特に I C T を利用して市議会の「見える化」について、スマートフォンの利用や U S T R E A M を活用した委員会中継など、マスコミに多く取り上げられた事例は大いに参考になった。
- スマートフォンでの議案採決も行われているが、一般質問時のプレゼンツールとしてプロジェクターも使用し、聴力のみでなく、視力もあり本会議が一段と可視化される事は良いと思う。しかし、本会議プロジェクター使用は、記録を残す事に難しい面はあると思う。
- 採決の際、スマートフォン端末を採決ボタンとして活用し、個々の採決内容が表示される。複雑なシステム構築もなく、経費のかからない方法である。
- 各議員及び議会事務局職員にタブレットを配付し、議会活動の活性化に取り組んでいる。
- タブレット端末は全議員に配布。しかし議場への持ち込み禁止、ネットへの接続なしでは、いろいろな課題があるとはいえ、宝の持ち腐れだと思った。
- 「市民に開かれた市議会」の実現に向けて、I C T の推進を求める決議を全会一致で平成 21 年 10 月に可決している。ペーパーレスの促進に向け、スマートフォンからタブレット導入へと、様々な課題はあるが、データバンク的に活用できるので、

本市も取り組むべきだと思う。

- 早くから議会活性化に取り組まれ、議会基本条例は平成 21 年に制定、同年 9 月には議会活性化推進委員会を立ち上げるなど、今後の議会のあり方を検討されているのは感心する。本会議のインターネット中継は平成 18 年から行われ、現在では委員会もライブ中継されている。また、平成 24 年からはタブレットも導入されているなど見習うべきことは多くあった。
- 一般質問時における議場へのパソコン等の持ち込みを許可し、P C ・プロジェクター・スクリーンを活用した一般質問が可能となっており、合理的でわかりやすい会議となっている。
- 本市においては学ぶべき点ばかりで、議会・執行部・議員の意識の高さ、真の活性化のあり方と、活性化をあらゆる方法で達成するという使命感を大いに見習うべきと感じた。
- 本市においても議会基本条例を施行した以上、時代に即した対応として、I C T の活用を急がなければ他議会に後れを取ると、危機感を感じた。

●埼玉県飯能市（1月24日）

【人口】81,453人 【面積】193.18km² 【財政力指数】0.80

◆視察事項 タブレット端末の導入について

1 タブレット端末

(1) 導入の経緯

飯能市では、紙使用量を削減するなど環境に配慮した活動推進（ISO14001 適合）

平成23年11月 議会改革検討会で情報機器を活用しペーパーレス化を論議

平成24年4月 操作性、機能性など考慮しタブレットを採用し、導入

(2) 情報通信技術を議会改革推進に活用

全員協議会のペーパーレス化

議会内の情報伝達（メール）

危機管理上の緊急連絡（メール）

政務調査活動（インターネット）

各種資料の閲覧（LAN）

(3) タブレット端末の構成

タブレット議会24台、執行部35台

無線LAN（Wi-Fi）によるデータ共有

セキュリティ対策として、事務局でロック、データ消去等の遠隔操作

(4) 導入費用等

導入費用391万円（①初期費用217万円②維持費用174万円）

維持費のうち1台当たり通信費が年間68,000円、公費4/6、政務活動費1/6、自己負担1/6の負担割合としている

(5) 導入効果

費用削減効果年間約210万円（全員協議会資料削減24万円、本会議録冊子廃止186万円）

紙使用量削減（年間約10万枚）による環境負荷低減

事務改善し、経費を節減

情報伝達の迅速化

政務調査活動の充実

危機管理対応の向上

(6) 利用のルール化のため議会が定めた規定

情報端末機使用基準 … 使用制限、遵守事項、セキュリティ対策等

情報端末機使用範囲等 … 端末機の使用対象会議、ペーパーレス化対象会議

IT会議基準 … 端末機紛失・情報漏えい等重大な問題、端末機有効活用等を協議

(7) 今後の課題としてしていること

利活用の推進 … ペーパーレス化対象会議の拡大、災害時の有効利用 など
システム等の見直し … 高機能・効率的なシステムの研究



【委員の感想】

○飯能市は、環境マネジメントシステム（ISO14001 適合）自治体となっており、当初はペーパーレス推進をコンセプトとして取り組まれ、議会改革検討会の協議を経て、まず全員協議会に情報端末機（タブレット端末）を導入しペーパーレス化した。さらに、議会内の情報伝達と危機管理上の緊急連絡にメールを活用し、インターネットによる政務調査活動に用い、各種計画、既存電子データの閲覧は庁内LANを利用している。

Wi-Fiでデータを共有でき、現在は全員協議会・本会議・議会運営委員会・行政経営会議・会派会長会議などの会議にタブレットが使用されている。

○流山市より一歩先をいっていた。全員協議会でペーパーレス化を決め、現在は全議員がタブレットを使用し、議会内の情報伝達はメールで行い、事務局の機能強化にもつながっている。

○IT会議はわかる人、わからない人、半々の構成で6名からなり、会議でOKが出たもののみアクセスできる仕組みを作っている。

○具体的に費用対効果をまとめていて大変参考になった。

○ペーパーレス化を促進するには、議会と執行部の同時進行が望ましい。よく話し合う必要がある。

○タブレット端末等導入し、大幅な紙使用量削減ができる。全員協議会資料、本会議

録冊子廃止等、削減効果年間210万円。削減する事による他の効果は、環境負荷の低減、経費・事務の軽減、情報伝達の迅速化、危機管理対応の向上等があげられた。十分に採算がとれると思われる。我々も早期に導入を図るべきと思った。特に災害発生時の危機管理対応には、迅速な情報伝達が行われると思う。

○平成24年度からタブレット端末を導入し委員会・本会議に利用されている。また、議員が災害等の報告も映像を市役所に送るなどの活用もされている。

導入に当たり費用面の削減の説明には私自身も納得した。我が市においても冊子が年間かなり配付されるが、これらもデータでもらえば費用面ではかなり削減できるものと考えられ、導入すべきと思う。IT化などは費用面で削減できるならばすぐに実施すべきではないだろうか。

○豪雨での災害現場を地域の議員がリアルタイムで写真・メールを市役所へ送信し、市は素早い対応ができたという実例が紹介された。

○議会改革の検討の中で、ICTを活用するツールの一つとしてタブレット端末の使用を研究した。委員会、会議等のペーパーレス化による経費節減のほか、災害情報等、日常の情報交換にも幅広く利用されている。

○タブレット端末は各議員に1台支給され、議員活動・議会活動を問わず使用され、大きな成果を上げると同時に、効率化・合理化の観点はもとより議会・議員活動の活性化のため全議員が使っており、意識改革も進んでいる。本市においても、通信環境・データ環境等整っており、すぐにでも進めていけるものとする。

○『未来にはばたく国際学術研究都市』として、一般市民より後れを取る議会ではない。市民代表として不可能を可能とするICT利活用は、全国議会ではすでに動いており、早く追いつく事が必要と感じた。

○タブレット端末を1ヶ月で導入決定され、本会議、委員会、全員協議会などすべての会議で活用している。民間では常識。使用に慣れるのに時間はかからない。今、始める方が良いと言われた。同感である。

○議会活性化の具体化を推進する「協議会」の必要性を痛感した。

タブレット導入による議員力、議会力の向上、経費節減と事務局負担を軽減しつつパワーアップが図られ、わが市議会でも、早急に導入すべきと思う。